

令和2年度 調布市立上ノ原小学校 学校評価報告書 (学校長 寺本 喜和)

学校の教育目標		
◎よく考え進んで学習する子ども 思いやりをもち仲良くする子ども 健康で明るく元気な子ども		
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像		
*【目指す学校像】「一人一人の児童が毎日生き生きと通うことのできる学校」		
◎「一人一人の児童が毎日生き生きと通うことのできる学校」を目指す。将来の日本及び国際社会の担い手として、児童に豊かな人間性・社会性を育成し、確かな学力の定着を図り、運動に親しませるなど生涯を健康に過ごすための素地を培う。そのためには、児童一人一人が「明日も学校に来たい。」と思えるような学校づくりを目指したい。学校は児童にとって「楽しい所」である。ただし、「楽しい」というのはただ面白おかしいという意味ではない。自分なりの目標をもって真剣に学習や学校生活に取り組みせ、困難を乗り越え、達成感を味わわせたい。そして、その経験を通して、児童一人一人が自己の成長を実感できるような学校を目指していきたい。〈経営理念〉 子どもたちに…「生きる力」の基礎を ○教職員に…「チームで働く喜びとやりがい」 ○保護者・地域に…「学校への信頼と安心を」		

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	① 共生する心情を培う(関連機関との連携、校内委員会の定期開催、SCの活用、年間を通して)	①「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善(「対話」につながる考えを伸ばす取組、校内研究の活発化、調布市研究推進校2年次への取組 年間を通して)	① 感染症対策指導、アレルギーについての指導(年度当初、児童への指導を全学級で)
	② 自他の生命と人権を尊重する(「上小スタンダード」の改定と活用、いじめの未然防止のための組織的取組、道徳授業の充実、年間を通して)	②「分かる」「できる」を育てる授業の推進(タブレット端末を利用した授業、UDの視点で授業の工夫、年間を通して)	② 運動の日常化(外遊びの奨励、リバー教育の実践、なわとび等の取組、年間を通して)
	③ 自己肯定感・自己有用感を育む(一人一人が活躍できる場、協力する喜びを感じる活動 年間を通して)	③ 実態に応じた交換授業の取組(教員の専門性を生かした交換授業、給食・学活の交換による児童理解、年間を通して順次行う)	③ 体育授業の充実(運動量を十分に確保した授業の実施、年間を通して)
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	①学校評価での特別支援教育に関する満足度肯定的意見が8割以上	①児童アンケート「意見をいうことができた」の肯定的意見が7割以上	①学校評価アンケート「感染症対策に適切に取り組んだ」肯定的意見7割以上
	②学校評価における「いじめに関する満足度」肯定的意見が8割以上	②児童アンケート「授業が分かる」の肯定的意見8割以上	②児童アンケート「体を動かすことに取り組んだ」肯定的意見8割以上
③児童アンケートで「学校が楽しい」とする意見が8割以上	③学校評価における「交換授業」にかかわる教員の肯定的意見8割以上。	③児童アンケート「体育の授業は楽しいか」肯定的意見7割以上	
学校関係者評価	・保護者は特に②が気になるところでしょう。いじめに対しては概ねよく対応できていると思うが、小さな変化に気づけるようにしていただきたい。 ・「学校が楽しい」という児童がさらに増えることを望む。	・現在の状況下では皆で一つのことを意見を交わしながら行うというのは難しいかと思うが人の意見をよく聴くという大事なことを育てていけたらよい。 ・交換授業は子どもにとって多くの先生を知る良い機会である。来年度も続けてほしい。	・①の感染症対策は学校・家庭両方で必要なことで特に家庭の役割が大切である。家庭による温度差が大きいため指導上は困難であるだろうと想像する。 ・ステイホームのストレスを解消するうえで学校での運動は大切である。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 保護者・地域との連携	5 安心・安全な学校づくり	6 美しい環境の学校づくり
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	①PTA、地域組織との連携(各会合への参加を進める)	①感染症拡大を防ぐ学校づくり(感染症対策を重点に置いた指導)	①言語環境の整美(大人が手本となる挨拶・言葉遣い)
	②地域学校協働本部の活性化(地域支援コーナーを中核として支援の実践を積む)	②事故やけがが少ない学校づくり(安全を守る意識を生活の中で高める)	②大規模校にふさわしい施設整備(適切な修繕と清潔な環境づくり)
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	①PTA や地域組織の会合に管理職が必ず参加したか(100%)	①学校評価アンケート「感染症対策に適切に取り組んだ」肯定的意見7割以上	①学校評価アンケート「挨拶がよくできる」保護者の肯定的意見が7割以上
②支援の実施回数が昨年度より上回ったか。予算が全額執行できたか。	②医療機関を受診する事故(けが)の回数を昨年度より2割減少させることができたか。	②修繕すべき箇所全てに何らかの対策をとることができたか。	
学校関係者評価	・子どもは家庭・学校・地域の中で育つが、自分の考えで動くのが地域だと思うので、見守る地域の人々が大事な役割を担っていると思う。地域にはいろいろな考えや年齢の方々がいるのでなるべく多くの交流機会があればと思う。コロナ禍でもよく地域との連携が取れていたと思う。	・上ノ原小のように容れ物は変わらないのに大人数ではケガも多くなると思う。 ・想定外である感染症への対応については、その時その時でベストを尽くされており、かつ相当の結果が出ていると思う。	・まちづくりの会のジャケットを着ているとよく挨拶してくれる。言葉遣いに関しては家庭環境も大きいのではないかと。 ・子どもたちの言葉の荒さはびっくりするほどである。すぐその場で直させるしかないと思う。挨拶はよくできていると感じている。

人材育成・組織運営

自己評価	・若手教員を育成するために、OJT 担当教員を指名して、その育成にあたらせた。育成については概ね順調である。 ・教師養成塾生2名を受け入れ、学校全体でその育成を図り、教員採用選考に合格を得た。資質能力の伸びがみられた。 ・主任教諭それぞれに自己の役割を与え、学習指導や生活指導にとどまらず学校運営に力を発揮させることができた。 ・主幹教諭3名が核となって学校運営を司る体制が確立した。副校長のマネジメント能力を活かすことができた。
学校関係者評価	・いわゆるスペシャリティー職員に頼るだけでなく、職員の自己役割や新しい体制を構築し実践していることは素晴らしい。 ・若手教員育成、OJT 担当教員を固定してしまうと担当教員の色に染まることはないか。 ・主幹教諭がリーダーシップを発揮して学校を牽引していることが分かり、来年度もさらにそのリーダーシップに期待する。 ・外から見ると学校の先生方が仲がいいと本当に安心する。

中期的な経営目標の達成状況

② 自ら問題を発見し、解決していくことができる資質・能力の育成 ④ 学校・家庭・地域が共に子どもの育ちを支えていく関係を発展させる。については、かなり目指す姿に近づけることができてきた。 ⑤ 安心・安全な学校づくり、については大きなけがが発生したので、そのことは課題である。 ⑥ 美しい環境の学校づくりについては、教員の言葉遣い等、改善の余地を残した。 ※全体としては6割程度の達成率である。

次年度の重点課題

◎「主体的」「自主的」をキーワードにした、教育活動の展開 ◎重大事故のない学校づくり
○感染症対策を踏まえた新しい教育活動の創造